

会員確保へイメージ一新

加古川市 老人クラブ連合会

広報誌「シニア」に改称

加古川市内の老人クラブでつくる市老人クラブ連合会が、年3回発行している広報誌の名称を「シニアかこがわ」に変更した。内容も連載やコラム、投稿を充実させるなど、読み応えのある記事を増やした。ホームページも設け、情報発信に力を入れる。広報誌として、最新号となる節目の第50号をこのほど発行した。

(若林幹夫)

市内の各クラブは60歳以上から活動でき、現在は14団体。高齢者は増えていくが、10年前の2011年に比べて団体数は6割ほどに減り、会員数はほぼ半減して約5400人になる。定年延長などが要因とみられる。「老人(という名称)に抵抗感がある」との声もあり、広報誌のリニューアルは課題となっていた。会員確保の一環という。

名称変更は7月発行の第49号から。仲間づくりや健康づくりなど各クラブの活動を紹介する記事は従来通り掲載しつつ、2次元バーコードのQRコードなどIT技術に関わる話題を紹介する「デジタルことはじめ」などを新設した。稲岡義則

会長(76)は、連載「田舎(いなおか)ふあーむ」で退職後に始めた野菜作りの体験をつづる。

第50号では、放送中のNHK大河ドラマ「晴天を衝け」の主人公渋沢栄一を特集した。稲岡さんは「親しみを持って読んでもらえる記事を意識した。投稿も増やしていきたい」と話す。

リニューアルに合わせて協賛企業の広告も掲載し、広告料収入で制作費を賄えるようにした。連合会として、健康増進の活動や会員特典事業などを充実させるという。来年4月には、連合会自体の名称も「市シニアクラブ連合会」に変更する。同連合会 ☎079・456・7212

連載や投稿増やし、内容も充実

シルバー
ライフ
はりま

名称を変更した広報誌「シニアかこがわ」の編集会議＝加古川市加古川町寺家町、市総合福祉会館

